

西照

西照寺寺報「さいしょう」 第35号

2018年8月16日

発行 浄土真宗本願寺派 西照寺
高岡市吉久2丁目4-40

郵便振替口座 00780-8-8185 西照寺
西照寺ホームページ <http://nisitera.eek.jp>

祠堂永代経 勤修

左記のとおり今年度の祠堂永代経をお勤めいたします
お参りくださいませ

おつとめの時間

八月二十七日(月) 午後二時〜

二十八日(火) 午後二時〜

布教使 高瀬 顕正 師 井波町浄教寺住職

西谷山西照寺

しどうえいたいきようほうよう 祠堂永代経法要

祠堂とは、先祖をまつる祠(ほこら)という意味で、お寺の本堂の別称とされています。また、永代経とは、永代にお経が読まれるという意味です。

ですから、祠堂永代経法要とは、お寺(西照寺)にご縁のある亡き方々の追悼のお経が永遠に挙げられ、子や孫が代々にわたって仏法を聞き慶ぶようにという願いが込められた法要です。

この法要は皆様の懇志によって営まれています。私が仏法を聞く御縁をひらいてくださる故人をしのびつつ、おまいりくださいませ。

幸せということ

一頃、ブータンが「幸福の国」ということで話題になったことがあります。2005年の調査では、国民の実に97%が「幸せである」と答えたということです。2011年には、ブータン国王夫妻が来日されています。その折、ブータンの政策として、国民総生産(GNP)よりも国民総幸福量(GNH)を重視している。つまり、経済発展(物質的豊かさ)よりも、「国民の幸福」(精神的豊かさ)の実現を目指していることが紹介されました。そして、そのことの大切さを世界にも提唱されているということで、さらに大きな波紋を生みました。

現に、国連を動かしています。

2012年、国連が3月20日を「国際幸福デー」とすることを採択し、国民の幸福の実現をめざす施策の大切さを確認する日としました。以来、毎年(2014年は発表なし)世界の幸福度ランキングを発表するようになりました。

因みに、2018年の発表は、世界156カ国中、1位はフィンランド、2位はノルウェー、3位はデンマークです。調査の項目には、経済だけではなく、自由と平等、平均寿命や福祉、政治の腐敗などが含まれています。社会保障や福祉などがしっかりとっているということなのでしょう

か。毎回北欧が上位を占めています。18位アメリカ、54位日本、57位韓国、86位中国、97位ブータン、150位シリア、156位ブルンジなどとなっています。

国際的な幸福を測る調査項目の尺度からすると、ブータンはかなり下位の方です。それなのに、なぜブータンの国民はそんなに幸福だと思っているのでしょうか。

誠に不思議です。

ブータンの国教は仏教でして、国民一人ひとりに仏教の精神が根付いていると聞いています。そのことと何か関係があるのではないだろうか。当時、いろいろ調べてみて、二つの事に思い当たりました。

一つは、「常に周りの人の幸せを願う」ということです。熱心な仏教徒であるブータンの人々は、毎日何十回と仏様の手を合わせます。日本でしたら、自分や家族の病氣回復や合格祈願など、自分たちのことをお願いすることが多いような気がします。ところが、ブータンの人たちは、周りの困っている人がたすかり、幸せになれるようにとお祈りするんだそうです。

仏教が私たちにもたらしてくれる「いのちへの目覚め」は、私は一人では生きていない、生きられないということですが、気がつかないほどの多くの人やモノとのつながりや関係性、支え合いのなかで成り立っています。幸せも一人では成り立

日本ではどうなのか

ちません。人との出会いや孫に恵まれるなど、そのつながりのなかで感じていくものです。人はつながりや関係性のなかで存在しています。ですから、つながっている周りの人が幸せにならなければ、自分も幸せになれません。

そして、周りとの関係性やつながりに気づいていくと、自然と感謝の気持ちかわいてくる。そうすると自己中心的欲望からも解放されて、「足ることを知る」ということが身についていきます。

二つ目は、仏教の生き方である「小欲知足」（欲を少なくして足るを知る）が身についているということです。資本主義の中に生きていますと生まれながらもつている自己中心的な欲望を満たすことが、幸せだ喜びだと振り回されそうになります。ですが、周りから支えられ生かされている命の事実に気づくと、現在の状態に満足する心が開かれてくるといふことなのでしょう。

この二つの点からも、ブータンの人たちには、仏教の精神が確かに息づいている。そして、そのことが幸せと感じさせるものになっているのではないかという思いが致しました。



それでは、日本ではどうなのでしょう。戦後たびたび、都道府県別生活満足度調査が行われてきました。いつも1位の県がありまして、福井県です。2011年の法政大学の調査では、1位福井県、2位富山県、3位石川県です。2018年の日本総合研究所の調査では、1位福井県、2位東京都、3位長野県、4位石川県、5位富山県になっています。今までの調査を見ても大抵北陸3県が上位を占めています。これは以前紹介した話ですが、二十数年前、このことに福井新聞が疑問を持ちました。どうしてうちの福井県民は、経済的にはとても一番とは思えないのに、日本で一番幸せだと思っている人が多いのだろうか。

そういえば、福井県は寺院の半数以上は、浄土真宗の寺院である。浄土真宗の教団隆盛の礎を築いた蓮如上人の越前吉崎の御坊もあった。浄土真宗の信仰に生きる人が、他と比べて圧倒的に多い。このことと何か関係があるのではないかと一度調べてもらう。

そこで、当時大阪市立大学の文学部部长であった金児暁嗣教授に依頼をしました。先生は、現地調査や大阪、福井県の大学生の意識調査などを通して結果を公表されています。

その概要を読んだ時、印象残ったのは大阪の学生に対して

福井県の学生の方が「おかげさま意識」が高かったこと。それから「感情のバランス」の調査をおこなったとき、大阪の学生は何となくイライラしている。それに対して福井県の学生は感情のバランスがうまくとれているということなのです。大阪の大学生というのは、全国から来られていますので、ある意味全国平均ということかもしれません。それに対して、福井県の大学生は地元の方が多く、その分地元の意識を色濃く反映しているものと思います。

また、「おかげさま意識」が高まると幸福感も高まると指摘していただいています。

現状に不平不満があるとイライラしてきます。それは私の心が決めることです。ところが私は一人では存在していなかった。先祖をはじめいろんな方々の支えやはたらきのなかで、生かされ支えられているのちであつたと気づかされてくると、感謝する心や御恩を感じる心がわいてきます。そうすると「おかげさま意識」が高まってきます。「おかげさま意識」が高まってくると、心がほっこりし、幸せを感じる心も高まるということではないでしょうか。

北陸3県は、なぜ生活満足度が高いのでしょうか。

それは多分に「おかげさま意識」ということと関係しているように思います。北陸3県は、浄土真宗の寺院の占める割合が、5割6割と多数を占めています。確かに浄土真

宗の教えは、生かされているのちへの目覚めを促すものです。しかし、それにも増して、北陸三県の先人たちは、他府県に比べても厳格に先祖の追悼儀礼を行ってきたように思います。五十回忌までねんごろに年忌法要を勤め、そこに集えるお互いのつながりの中から生きる幸せを感じ取ってきました。毎月僧侶に月参りをしてもらおう。お盆には墓参り。更には、ご縁のあるお寺で先祖方の永代経法要を営み、年に一度は各家庭でも寺院でも報恩講を勤めてきました。

先祖の追悼儀礼を積み重ねていくと「おかげさま意識」は深まっていきます。

先人が、そうやって何百年間にもわたって、厳格に先祖の追悼儀礼を営んできて下つたうえに「おかげさま意識」の高まりがあり、北陸3県が常に上位を占める要因の一つになっているのではないかと私には思えました。

先人は、先祖への追悼儀礼を通して私たちに何を伝えようとしてくださったのでしょうか。その先人の思いを汲み取りながら、今年も西照寺にご縁のある全門信徒の祠堂永代経法要をお勤めしたいと思います。(文責 住職)

